

昨年秋、市民講師ガイドの発行の新聞記事を見たということで、総合学習担当のM先生からお電話をいただき、学校でも教師やPTAなどを通じて講師を集めるが、それに加えて応援団からも講師を派遣してほしいという依頼でした。産経新聞記者小宮山光賢さん、建築家でエコライフ実践家の菅澤宣夫さん、元エンジニアの和田さんが指名され、2005年2月17日(木)、3名の講師とともに綾瀬西高校へ行ってきました。



応援団講師以外には、舞台演出家、看護師、旅行業者、起業家、学校に併設されているデイサービスセンターの介護士というバラエティに富んだ講師陣の中から、生徒は希望する講師を選んで話を聞きました。小宮山さんは、「新聞はどのようにして作られるのか?」「新聞記者の適性」などについて、菅澤さんは朝収穫したほうれん草や家庭用の生ごみを入れるバケツを持ち込み、



「建築家でありながら農業に目覚めた理由」などを、和田さんは自分が開発に関わった磁気読み込み装置（切符や定期、駐車場の券など）の例を挙げて、エンジニアとはどんなことをしているのか? についての話をしました。

菅澤さんは少し眠たそうな生徒に家庭から出た生ごみで作った液肥の臭いがかがせたりして、生徒たちと上手にコミュニケーションをとっていました。



私たちコーディネーターは、講師の授業を見学し、気づいたことを講師にフィードバックして授業の質を高めていただくようにしていますが、逆に講師の授業から学ぶこともたくさんあります。さらに、生徒のアンケートや感想からも彼らが考えていることをうかがい知ることができ、それを次につなげていくようにしています。

学校で外部講師が授業を行うと、依頼した手前から、先生方からは謝辞しかなく、本音を聞くことができないことが多いのですが、応援団としては生徒のみなさんによりよいものを届けたいという思いで、授業やコーディネートの改善を自主的に行っています。

【生徒のアンケート結果と分析】
1) 講座の内容はどうでしたか?

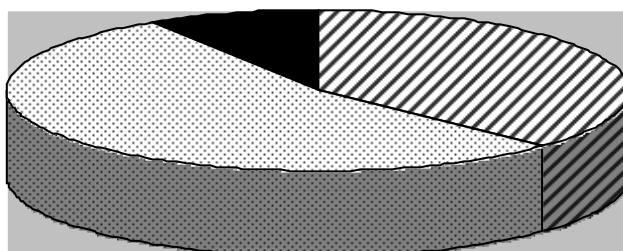
項目	計
とてもおもしろかった	17
まあまあおもしろかった	28
あまりおもしろくなかった	7
ためになった(役に立つと思う)	22
ためにならないと思う(役に立たないと思う)	4

2) 講師はどうでしたか？

項目	計
わかりやすく教えてくれた	34
少し難しかった	25
よくわからなかった	7

3) このような授業をまた受けてみたいと思いますか？

項目	計
ぜひまた受けたい	25
どちらでもいい	36
受けたくない	6



- ☐ ぜひまた受けたい
- ▨ どちらでもいい
- 受けたくない

* 講師の良かったところとして、「聞きやすかった／わかりやすかった／詳しく説明をしてくれた／おもしろかった／実物の野菜を持ってきたところ／身近にあるもので気づかないものを見つけたような気がした／NEWSを伝える人の苦勞がわかった／質問しながら、詳しく教えてくれた／優しい感じ／かっこよかった／熱心だった／真剣な態度／話し方がうまい／自分の世界が広がった／身近なものを例としてあげてくれた」等のコメントがありました。

【コーディネーターより】

今回の生徒の感想を読んで、「やった！」と思わずひざをたたきました。「さがみはら教育応援団」が掲げているキャッチフレーズの「かっこいい大人宣言」を感じてくれたようです。世の中の大人は汚れていて、ずるがしくて、子どもたちから見てかっこ悪い人が多く、そんな大人を見て育った子どもたちは大人になりたくないと思っているのではないかと。だからこそ、せめて応援団の講師は、自分の生き方や仕事に自信と誇りを持ち、ありのままの正直な自分を子どもたちの前にさらして、「まともな大人」の見本を見せてほしいと考えています。

正直に言うと、すべての生徒が熱心に講師の話を聴いていたとは思えませんでした。彼らは彼らなりに、講師の心を見抜き、熱意を敏感に感じ取っていたのだということがわかりました。「このような（社会人講師による）授業をまた受けたいか？」という問いに対して「受けたくない」と答えた生徒が6名しかいなかったこともよかったと思いました。

真剣に、情熱を持って子どもたちと正面から向き合うと、その姿勢や気持ちが伝わります。「一期一会」という言葉がありますが、まさしく私たちには、たった一度の出会いのチャンスしかありません。そのわずかな出会いに全力を注ぐという気持ちで、今後も活動をしていきたいと考えています。